

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

清水谷高校のミッション

本校は 1900 年創立の歴史と伝統を受け継ぎ、「愛と恕」の精神の下、個性と多様性を尊び、共生社会で使命を果して幸せな人生を歩むための教育を行う。

めざす学校

生徒が本校で充実した学校生活を過ごす中で、明るい将来の展望を持ち、自他の個性を尊び、将来果たすべき使命を意識して、幸せな人生を歩めるように

- 1. かけがえのない存在として自分の能力を信じて、伸びしろに期待した高い目標に挑戦し、失敗して学び、達成で成長の喜びを実感する学校
- 2. 志や使命感を持ち、他者への感謝と思いやりを忘れず、礼儀を弁えて、自らの品性と教養とを磨く学校
- 3. 毎日を充実させて、何事も自ら考え判断し、仲間と協働して、自ら創造と変化を引き起こすことができる学校

2 中期的目標

1 確かな学力の定着と学びの深化

(1) 学習指導要領の確実な実施と確かな学力の育成のために授業改善を行う。(「」内は学校教育自己診断のアンケート設問事項。以下全て同様。)

ア 授業づくりチームを核に、授業見学週間や研究授業、授業アンケートを活用して授業改善に組織的に取り組む。

※ 生徒の「清水谷高校は学ぶ意欲を引き出す授業をしている」の肯定率を R9 年度には 85%以上にする (R4=78%, R5=74%, R6=82%)。

※ 生徒の授業アンケート全教員平均を R9 年度まで 3.40 以上を維持する (R4 1回目①3.48, 2回目②3.47, R5 ①3.47, ②3.47, R6 ①3.54, ②3.56)。

イ 1人1台端末や ICT を活用した授業を推進し、反転授業など新たな授業形態も研究して主体的・対話的で深い学びの実現を進め生徒の学力の向上を図る。

※ 生徒の「清水谷高校は ICT 機器を効果的に活用している」の肯定率を R9 年度まで 90%以上で維持する (R4=74%, R5=84%, R6=93%)。

※ 生徒の「清水谷高校は 1人1台端末を効果的に活用している」の肯定率を R9 年度まで 90%以上で維持する (R4=59 %, R5=79%, R6=92%)。

ウ 学習指導要領を踏まえたカリキュラムの確認・見直しや、学年進行による観点別授業評価を全教員が安定して実施できるようにする。

※ 教員の「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」を R9 年度 90%以上にする (R4=83%, R5=86%, R6=73%)。

(2) グローバル社会を生き抜く力を養い、活躍できる人材を育成する。

ア 多様化・国際化する社会の中で、国際共通語としての英語コミュニケーション力を生徒に習得させるように、校内外での英語使用機会を増加させる。

※ R5 年度に復活した本校主催の海外語学研修や海外の学校等を本校に招き交流する機会を R9 年度までに年 1 回以上行うことを定着させる。(R6=1 回)

2 授業や行事、部活動などあらゆる学校活動を通じて、豊かな心と健やかな体を養い、非認知能力を育成する教育機会の充実

(1) 授業や様々な活動を通じて、人種、民族、宗教、国や性の違い、障がいの有無などにかかわらず、多様性を認め合い共生していくための意識を醸成する。

ア 授業や様々な活動を通じて、人権・多様性を尊重する意識の醸成や、情報モラル、メディアリテラシーに関する知識の向上を図る。

※ 生徒の「清水谷高校は命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の肯定率を R9 年度まで 90%以上で維持する (R4=92%, R5=92%, R6=96%)。

イ いじめの防止の徹底をする。

※ 生徒の「いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の肯定率を R9 年度まで 90%以上で維持する (R4=93%, R5=93%, R6=96%)。

(2) 豊かな心や、社会性、自主性・自立性、やり抜く力などの非認知能力を育てる授業や部活動、自治会活動等の仕組みと環境を維持、推進する。

ア バランスのとれた心身の成長や、社会性、自主性、やり抜く力などの非認知能力を育てる授業や部活動、自治会活動等の仕組みと環境を維持、推進する。

※ 生徒の「清水谷高校は部活動が活発に行われている」の肯定率を R9 年度まで 90%以上で維持する (R4=96%, R5=97%, R6=98%)。

※ 生徒の「学習と部活動の両立を大切にしている」の肯定率を R9 年度まで 90%以上で維持する (R4=91%, R5=90%, R6=94%)。

※ 生徒の「清水谷高校は自治会活動が活発に行われている」の肯定率を R9 年度まで 90%以上で維持する (R4=94%, R5=89%, R6=90%)。

3 将来をみすえた自主性・自立性を育成するキャリア教育の充実と希望の進路の実現

(1) 卒業後のみならず、10 年後、20 年後のその先を見通したキャリア教育の充実を図る。

ア 生徒に、大学進学等のその先を見通したキャリアや、社会での役割・使命を意識させる外部講師の講演などを行い、キャリア教育を充実させる。

※ 生徒の「清水谷高校では将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率を R9 年度まで 90%以上で維持する (R4=91%, R5=91%, R6=95%)。

※ 生徒の「清水谷高校は生徒の自主性を重んじている」の肯定率を R9 年度までに 90%以上で維持する (R4=85%, R5=83%, R6=90%)。

(2) 生徒の希望の進路を実現させる。

ア 生徒が、入学から卒業まで全教科をしっかりと学び、学力をつけて希望の進路を実現させるように、進路指導の充実をはかる。

※ R9 年度までに国公立大学の進学を希望 (3 年次 4 月時点) した生徒の現役合格率 40%以上をめざす (R4=29.2%, R5=33.8% R6=34.4%)。

※ R9 年度に国公立大学へ合格者数を卒業生の 20%, 60 名以上にする (R4=14%, 40 名, R5=18%, 49 名, R6=17%, 45 名)。

4 多様な人材・機関との連携や協働の充実と府立学校の魅力づくり

(1) 地域・大学・企業、同窓会等の連携による探究活動の充実をめざす。

ア 総合的な探究の時間等で地域・大学・企業、同窓会などとの連携を模索し、生徒が答えのない問題に取り組み学力の三要素を磨く。

※ R9 年度までに社会人による講演や先輩講話、外国人留学生とのインターンシップ交流等を年間 3 回以上実施する。(R4=1 回、R5=3 回、R6=3 回)

※ 生徒の「清水谷高校は学校外の方たちと交流する機会を設けている」の肯定率を R9 年度までに 85%以上に定着させる (R4=56%, R5=88%, R6=81%)。

(2) 府立学校の魅力づくりの追求と効果的な情報発信による募集力の強化を行う。

ア 特色や魅力のある教育を行うとともに、効果的で積極的な情報発信や、学校説明会の開催時期と実施方法、実施内容の見直しを行い、志願者増加に繋げる。

※ R9 年度までに地元の保育園、幼稚園、小学校、中学校との連携強化や、動画などの新たな広報で積極的な情報発信を行う。

※ R6、R7 の募集人員 1 学級増加後においても、中学生の本校志願倍率を R9 年度まで 1.1 倍以上で定着させる (R4=1.02, R5=1.28, R6=1.21, R7=1.22)。

5 力と熱意を備えた教員の育成と学校組織づくりによる「働き方改革」の推進

(1) 教職員が、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導や生徒相談をできる資質を養成する。

ア 担任団、学年間の連携強化を図るとともに、校内外の教職員研修を通じて教職員がカウンセリングマインドを取り入れた生徒指導等をできる資質を養う。

※ 教員の「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」の肯定率を R9 年度までに 90%以上にする (R4=83%, R5=83% R6=80%)。

※ 生徒の「学校生活についての先生の指導には納得できる」の肯定率を R9 年度までに 85%以上で定着させる (R4=77%, R5=78%, R6=86%)。

(2) 「働き方改革」の推進による教職員の長時間勤務の縮減をめざす。

ア 健康管理の観点から、分掌業務、会議時間、部活指導時間等の見直しなどで「働き方改革」を追求し、教職員の長時間勤務を縮減する。

※ 教職員 1 人当たりの平日月間超過勤務時間数を R9 年度までに R6 年度比で 10%減らす (R4 33.5 時間, R5 27.5 時間, R6 28.5 時間／4～12 月平均)。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和7年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【学習指導等】 ・「学ぶ意欲を引き出す授業をしている」（生徒）84.3%（昨年 82.4%）、「教材や教え方に工夫をしている」（生徒）88.7%（85.1%）、「学習習慣を定着させる指導をしている」（生徒）85.4%（82.9%）、「ICT 機器を効果的に活用している」（生徒）95.4%（93.2%）、「子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている」（保護者）79.8%（70.0%）、「学習と部活動の両立を大切にしようとしている」（保護者）94.9%（88.3%）、「適切なレベルと進み具合で授業を行っている」（教員）90.0%（88.5%）などの項目において肯定的評価が増加した。授業改善や評価検証の取り組みの効果があつたものと考えられる。今後も生徒個々の力を最大限に伸ばす指導方法の工夫と授業改善の取り組みをさらに進めたい。 【生徒指導等】 ・「学校生活についての先生の指導には納得できる」（生徒）88.7%（85.9%）、「生徒の自主性を重んじている」（生徒）92.8%（89.6%）、「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談することができる先生がいる」（生徒）80.6%（78.6%）、「清水谷高校の生徒指導方針に共感できる」（保護者）94.0%（86.7%）が増加。特に、「保護者の相談に適切に応じてくれる」（保護者）94.1%（81.1%）は大幅に増加した。カンファレンス会議の回数を増やすなど教育相談や生徒指導の取り組みについて一定の評価を得ることができた。今後も保護者と生徒の学校への信頼感を大切にしながら生徒支援を続けていきたい。 【学校運営】 ・「自治会活動が活発に行われている」（生徒）91.8%（89.9%）、「学校外の方たちと交流する機会を設けている」（生徒）84.2%（81.4%）、「清水谷高校の授業参観や学校行事に参加したことがある」（保護者）92.3%（86.7%）、「各分掌や学年間の連携・協力が円滑に行われている」（教員）65.0%（50.0%）が増加。生徒や保護者が認識している学校の良さを外部に向けて積極的に発信するとともに、教員力のさらなる向上を図り、「チーム清水谷」として安全で安心な環境のもと生徒をはぐくむ学校づくりをより一層推進する。	第1回（6月18日） - 清水谷高校の良さは普通科の高校として、生徒がリベラルアーツを含めた多様な活動を行っていることである。非認知能力の育成とともに興味関心を引き進路につなげている取組みは高く評価できる。今の清水谷を支持してくれている人を裏切らないようこの特色を堅持してほしい。 - 清水谷高校はバランスのよさが魅力であり、特定の分野に突き抜けていないところがよい。新入生アンケートで、清水谷を選んだ理由の1位である「校風」とはそのような点にあると考える。 第2回（11月12日） - 国際交流は、訪問だけではなく来校型（海外の生徒が日本に来る）が全員の学びにつながるため今後も積極的に受け入れることが望ましい。 - 学校説明会のアンケート結果を見ると評価が高く、今の学校の良さが伝わっていることがわかる。今後も広報を大切にし、その雰囲気をもっと強化してほしい - 学校ホームページの情報発信をもっと強化してはどうか。 - 非認知能力の育成にも引き続き取り組まれない。 第3回（2月20日） - 授業アンケートでの指標3.5以上の達成、海外交流（語学研修や姉妹校提携）の再開、個別面談を通じた丁寧な教育相談体制（肯定率98%）、保護者アンケートの評価の大幅上昇（授業の分かりやすさ、指導方針への共感、相談対応など）など今年度の教育活動について成果があつたことが見て取れる。 「学びの活用」など4項目が目標値に届かなかったことについては、いずれも数ポイントの僅差であり、実質的には高い水準を保っていることは評価できる。 - 清水谷高校の良さは、普通科の学校として学習、学校行事、部活動などバランスの取れた教育活動を行っている点にある。今後も非認知能力や豊かな心を育成するために、リベラルアーツや芸術科の取組みを大切にし、さらに学校の魅力を高めていってもらいたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔R6年度値〕	自己評価
-------	----------	-------------	-------------	------

府立清水谷高等学校

1 確かな学力の定着と学びの深化	(1) 新学習指導要領の確実な実施と授業改善	(1) 新学習指導要領の確実な実施と確かな学力の育成のために授業改善を行う。	(1)	(1)
	ア 授業づくりチームを核とした授業改善	ア 授業づくりチームを核に授業見学週間や研究授業、授業アンケートを活用して授業改善に組織的に取り組む。授業見学週間では指定された研究授業1つを含む2つ以上の授業を見学し、研究協議に臨み、改善を図る。	ア・生徒の「清水谷高校は学ぶ意欲を引き出す授業をしている」の肯定率を85%以上にする[82%]。 ・生徒の授業アンケート全教員平均を3.40以上を維持する[3.56]。	ア・生徒の「清水谷高校は学ぶ意欲を引き出す授業をしている」の肯定率は84%で昨年より向上したが目標値には僅かに及ばなかった。(○) ・生徒の授業アンケート全教員平均は1回目①3.56、2回目②3.56で、2回とも3.5を超える高い水準を維持している。(◎)
	イ 1人1台端末やICTを活用した授業推進と生徒の学力の向上	イ 1人1台端末やICTを活用した授業を推進し、反転授業など新たな授業形態も研究して主体的・対話的で深い学びの実現を進め生徒の学力の向上を図る。1人1台端末やICTの活用方法について、研究協議等で教員間の情報交換の機会を設ける。	イ・生徒の「清水谷高校はICT機器を効果的に活用している」の肯定率を90%以上で維持する[93%]。 ・生徒の「清水谷高校は1人1台端末を効果的に活用している」の肯定率を90%以上で維持する[92%]。	イ・生徒の「清水谷高校はICT機器を効果的に活用している」の肯定率は95%で、前年比2ポイント向上。(◎) ・生徒の「清水谷高校は1人1台端末を効果的に活用している」の肯定率は94%で、前年比2ポイント向上。(○) ・今後も1人1台端末やワイドプロジェクターなどのICT機器を活用したわかりやすい授業づくりを進めていく。
	ウ カリキュラムの確認・見直し、観点別学習評価の安定実施	ウ 学習指導要領を踏まえたカリキュラムの確認・見直しや、学年進行による観点別評価を全教員が安定して実施できるようにする。学習指導要領や観点別評価について、研究協議等で教員間の情報交換の機会を設ける。	ウ・教員の「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」の肯定率を85%以上にする[73%]。	ウ・教員の「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」の肯定率は75%で前年度より2ポイント向上したが目標値に及ばなかった。(○)
	(2) グローバル社会を生き抜き活躍できる人材の育成	(2) グローバル社会を生き抜く力を養い、活躍できる人材の育成	(2)	(2)
	ア 校内外での英語使用機会の増加	ア 多様化・国際化する社会の中で、国際共通語としての英語コミュニケーション力を生徒に習得させるように、校内外での英語使用機会を増加させる。	ア・R5年度に復活した本校主催の海外語学研修や海外の学校等を本校に招き交流する機会をR9年度までに年1回以上行うことを定着させる。(R6=1回)	ア・6月に関西外国語大学のアメリカ人2名を1ヶ月間グローバルインターンシップで受け入れ、9月からブラジル人の留学生1名を1年間の予定で受入れた。7月～8月にはオーストラリア語学研修を25名の参加者で実施。また1学期には、インド、タイ、インドネシアの教育視察訪日団を受入れた。(◎)

府立清水谷高等学校

2 授業や行事、部活動などあらゆる学校活動を通じて、豊かな心と健やかな体を養い、非認知能力を育成する教育機会の充実	(1) 多様性を認め合い共生していく意識の醸成 ア 人権・多様性の尊重意識の醸成や情報モラル等に関する知識の向上 イ いじめ防止の徹底 (2) 非認知能力を育てる部活動や自治会活動の仕組み、環境を維持 ア 非認知能力を育てる部活動や自治会活動ができる仕組み、環境を維持	(1) 授業や様々な活動を通じて、人種、民族、宗教、国や性の違い、障がいの有無などにかかわらず、多様性を認め合い共生していくための意識を醸成する。 ア 授業や様々な活動を通じて、人権・多様性を尊重する意識の醸成や、情報モラル、メディアリテラシーに関する知識の向上を図る。 イ いじめの防止の徹底をする。 (2) 豊かな心や、社会性、自主性・自立性、やり抜く力などの非認知能力を育てる授業や部活動、自治会活動等の仕組みと環境を維持、推進する。 ア バランスのとれた心身の成長や、社会性、自主性、やり抜く力などの非認知能力を育てる授業や部活動、自治会活動等の仕組みと環境を維持、推進する。 ・校則の見直しについて、生徒の意見を反映するような仕組みや活動を自治会とともに検討し、進めて行く。	(1) ア・生徒の「清水谷高校は命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の肯定率を 90%以上で維持する [96%]。 イ・生徒の「いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の肯定率を 90%以上で維持する [96%]。 (2) ア・生徒の「清水谷高校は部活動が活発に行われている」肯定率 90%以上で維持する [98%]。 ・生徒の「学習と部活動の両立を大切にしている」肯定率 90%以上で維持する [94%]。 ・生徒の「清水谷高校は自治会活動が活発に行われている」の肯定率を 90%以上で維持する [90%]。 ・生徒の「学校生活についての先生の指導には納得できる」の肯定率 90%以上をめざす [86%]。	(1) ア・生徒の「清水谷高校は命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の肯定率は 94%で高い水準を維持している。(○) ・今年度、外部講師による同和教育講演会を実施し、「知らないことを学べてよかった。」という多くの感想があった。今後もジェンダーや情報モラルなど多角的な人権教育の取組みを進めたい。 イ・生徒の「いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の肯定率は 98%で、目標を上回る高い数字になった。(◎) ・これからも「安全で安心な学校」であり続けるための取組みを進めていく。 (2) ア・生徒の「清水谷高校は部活動が活発に行われている」肯定率は昨年と同じ 98%と高い水準を維持している。(◎) ・生徒の「学習と部活動の両立を大切にしている」肯定率は 93%で目標値を維持。(○) ・生徒の「清水谷高校は自治会活動が活発に行われている」の肯定率は 92%で目標を達成。(○) ・部活動や自治会活動が生徒の非認知能力の育成に果たす役割は大きいものとする。 ・生徒の「学校生活についての先生の指導には納得できる」の肯定率は 89%で、前年度を 3ポイント上回ったが目標値には僅かに及ばなかった。(○)
	(1) 20年後のその先を見通したキャリア教育の充実 ア 外部講師の講演等によるキャリア教育の充実 (2) 希望の進路の実現	(1) 卒業後のみならず、10年後、20年後のその先を見通したキャリア教育の充実を図る。 ア 生徒に、大学進学等のその先を見通したキャリアや社会での役割・使命を意識させる外部講師の講演などを行い、キャリア教育を充実させる。 (2) 生徒の希望の進路を実現させる。 ア 生徒が、入学から卒業まで全教科をしっかり学び、学力をつけて希望の進路を実現させるように、進路指導の充実をはかる。	(1) ア・生徒の「清水谷高校では将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率 90%以上で維持する [95%]。 ・生徒の「清水谷高校は生徒の自主性を重んじている」の肯定率を 90%以上で維持する [90%]。 (2) ア・国公立大学へ進学を希望 (3年次 4月時点) した生徒の現役合格率 35%以上をめざす [34.4%]。 ・国公立大学へ合格者数を卒業生の 18%、50名以上にする [17%、45名]。	(1) ア・生徒の「清水谷高校では将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率は前年度と同じ 95%で目標値を維持。(◎) ・夢や希望を持ち、自らのライフプランを見据えた進路を考えるキャリア教育を推進していく。 ・生徒の「清水谷高校は生徒の自主性を重んじている」の肯定率は 93%で、前年比 3ポイント向上。(○) (2) ア・国公立大学へ進学を希望 (3年次 4月時点) した生徒の現役合格率は 34%であった。(○) ・国公立大学へ合格者数は卒業生の 16%となる 44名であった。(○) ・生徒のより確かな進路実現に向けて、清水谷セミナー等の講習のより一層の充実を図る。

府立清水谷高等学校

4 多様な人材・機関との連携や協働の充実と府立学校の魅力づくり	(1) 地域・大学・企業、同窓会等の連携による探究活動の充実 ア 地域・大学・企業、同窓会などとの連携を模索し、学力の三要素を磨く	(1) 地域・大学・企業、同窓会等の連携による探究活動の充実をめざす。 ア 総合的な探究の時間等で地域・大学・企業、同窓会などとの連携を模索し、生徒が答えのない問題に取り組み学力の三要素を磨く。	(1) ア・社会人による講演や先輩講話、外国人留学生とのインターンシップ交流等を年間3回以上実施する。[3回] ・生徒の「清水谷高校は学校外の方たちと交流する機会を設けている」の肯定率を85%以上に定着させる[81%]。	(1) ア・社会人等による講演は、6月に1年生に中央サポートセンター担当者の講演10月と11月に2年生に NPO 法人担当者の講演、10月に3年生に府連担当者、11月に大阪医療センター長の講演を実施。2月に2年生が夕陽丘高校と大手前高校と合同で総合的な探究の時間の成果発表会を行った。外国人留学生のインターンシップ交流は6月に関西外国大学留学中のアメリカ人2人を1か月グローバル・インターンシップで受入れ9月から1年間ブラジルの留学生を受入れている。[5回] (○) ・生徒の「清水谷高校は学校外の方たちと交流する機会を設けている」の肯定率は84%で、前年度を3ポイント上回ったが目標値には僅かに及ばなかった。(△)
	(2) 府立学校の魅力づくりの追求と効果的な情報発信による募集力の強化 ア 特色ある教育と効果的で積極的な情報発信で募集力強化再建	(2) 府立学校の魅力づくりの追求と効果的な情報発信による募集力の強化を行う。 ア 他と異なる特色や魅力のある教育を行うとともに、広報媒体の見直しや、効果的で積極的な情報発信で募集力を強化する。 ・学校説明会の開催時期と実施方法、実施内容の見直しや改善を行い、志願者増加に繋げる。	(2) ア・地元の保育園、幼稚園、小学校、中学校との連携強化や、動画などの新たな広報で積極的な情報発信を行う。 ・ホームページへの動画掲載や校長ブログ等で積極的に情報発信する。(校長及び学年ブログ年間200件目標[730件]) ・中学生の本校志願倍率を1.1倍以上に定着させる。[1.22]	(2) ア・近隣の3幼稚園で家庭科実習での交流や避難訓練の受入れを行った。また、1幼稚園が本校体育館で運動会を実施した。(○) ・校長及び学年ブログは年間合計350件発信。(◎) ・学校説明会の年間参加者数は中学生と保護者計2,889名。昨年度の2,710名より増加した。(○) ・令和8年度選抜の志願倍率は1.14倍であった。(○)

府立清水谷高等学校

5 力と熱意を備えた教員の育成と学校組織づくりによる「働き方改革」の推進	(1) カウンセリングマインドによる生徒指導、相談の資質養成	(1) 教職員が、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導や生徒相談をできる資質を養成する。	(1)	(1)
	ア カウンセリングマインドによる生徒指導、相談の資質の養成	ア 担任団の生徒に係る即時情報共有や円滑な相互連携ができる座席配置等を検討実施する。 ・学年縦断の連携に資する行事を検討実施する。 ・校内外の教職員研修を通じて、教職員がカウンセリングマインドを取り入れた生徒指導や生徒相談に応えられる資質を養成する。	ア 担任団の連携強化策の検討実施。 ・学年相互連携強化策を将来構想委員会で検討の上実施する。 ・生徒の「学校生活についての先生の指導には納得できる」の肯定率を85%以上で定着させる[86%]。 ・教員の「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」の肯定率85%以上にする。[80%]	ア 学年主任を中心とした担任団の迅速な情報共有など連携強化に取り組み、教員の「各分掌や学年間の連携・協力が円滑に行われている」の肯定率が65%となり、昨年度より15ポイントと飛躍的に増加した。(◎) ・生徒の「学校生活についての先生の指導には納得できる」の肯定率は昨年度を3ポイント上回る89%になった。(○) ・教員の「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」の肯定率は88%。(◎)
	(2) 「働き方改革」の推進による教職員の長時間勤務の縮減	(2) 「働き方改革」の推進による教職員の長時間勤務の縮減をめざす。	(2)	(2)
	ア 健康管理の観点から「働き方改革」を追求し、教職員の長時間勤務を縮減	ア 健康管理の観点から、分掌業務、会議時間、部活指導時間等の見直しなどで「働き方改革」を追求し、教職員の長時間勤務を縮減する。 ・定時退庁日や学校閉庁日の徹底、部活動指針の遵守徹底により、教員の超過勤務を削減する。	ア 教職員1人当たりの平日月間超過勤務時間数をR6年度比で5%減らす[R6年度28.5時間／4～12月平均]。	ア 教職員1人当たりの平日月間超過勤務時間数はR6年度比12.6%減の24.9時間／4～12月平均となった。部活動指導、各種会議、分掌業務の見直しなど「働き方改革」の取り組みの成果があった。(◎) ・本校教員の時間外在校時間の一人当たりの平均値は、全日制府立学校全体の平均値を下回っている。今後も教員の超過勤務削減に向けた取組みを進めていく。